

R. K. 現代社会システム学科・3年次

I. 留学レポート

①留学決定から出発までの準備期間

留学が決まってから、まずパスポートの更新をしておき、大学での試験が終わるまでは普段通りバイトをしながら、大学の授業に集中し試験の準備をしました。それから、試験が終わってから出発まで1ヶ月程度あったので、少しずつ今までに習った韓国語の復習をしたり、ビザの取得、航空券の購入、荷物の準備、夏服などは郵送しました。また、新生銀行の海外送金サービスを利用するためカードを作りに行ったりしました。パソコンや電気製品などを韓国で使用できるようにインターネットや電気屋に行き調べ、必要なプラグやコードなどを買いそろえました。

②語学研修期間

最初にクラス分けのレベルテストがあり、私は韓国語教育部の授業である「韓国語会話&聴解Ⅱ」、「韓国語作文&読解Ⅱ」と、「韓国語会話練習Ⅱ」という授業を受講することになりました。韓国語会話練習Ⅱの授業は月、木曜日の朝10時30分～11時45分まででありました。韓国語教育部の2つの授業は3月末から始まり、月火木金曜日の13時40分～17時30分まででありました。その他にも単位にはありませんが、発音、作文クリニックや、ソウル女子大学の学生との韓国語会話練習などに参加していました。「韓国語会話&聴解Ⅱ」、「韓国語作文&読解Ⅱ」、「韓国語会話練習Ⅱ」では、中間試験、期末試験がそれぞれあり、その他の小テスト（会話や単語テストなど）が週に1回ぐらいはありました。授業をしっかりと聞き、宿題をしていれば授業にはついていけますが、会話などの小テストが多くてその準備が結構大変でした。

秋学期にも正規科目と並行して、韓国語教育部の「韓国語会話&聴取Ⅳ」と、「韓国語作文&読解Ⅳ」を受講しました。「中級韓国語」という授業も受講したかったのですが、正規授業の時間帯と重なって登録ができなかったため、先生にお願いをし、週に一度だけ聴講をさせていただきました。

③正規科目履修期間

◆履修科目

春学期は、国際協力部の先生が正規科目の登録のオリエンテーションをしてくださり、そこで履修科目を決め、先生が登録してくださいました。私は、日本語の授業とヨガの授業を選択しましたが、最初の2週間ほど授業を受けてみて、韓国語の授業だけで忙しく余裕がないのと、やはり正規授業を韓国語で受講するには当時の私の韓国語レベルでは難しく、ついていけないと感じたため、修正期間中に削除し、春学期は韓国語の授業だけに集中することに決めました。

秋学期には、私は社会システム学科で社会保障に関するゼミに入っているため、それに似た授業を受けようと、ソウル女子大学の社会福祉学専攻の授業の中から「社会福祉倫理と哲学」、「青少年福祉」の2つの授業を選択して受講することに決め、インターネットで

自分で登録をしました。まず、「社会福祉倫理と哲学」という授業は、社会福祉のいろいろな過程の中で生じるジレンマについての内容が多かったです。「青少年福祉」という授業は、青少年の概念から、現代の青少年たちが抱えているさまざまな問題について、またそれについてどのように福祉的に問題を解決していけるかなどについて学びました。

◆授業、レポート、定期試験

「社会福祉倫理と哲学」では、ソウル女子大学の社会福祉学専攻の学生の多くは社会福祉士になること、資格をとることを目標としているため、社会福祉士としての心得や、自分が社会福祉士であれば、この事例に対して、どのように介入し問題を解決していくかなど、グループ討論形式の授業も多くありました。先生の社会福祉士としての今までの体験談や現場での具体的な話が多く、聞き取りやすく、興味深い授業でした。しかし、私は社会福祉に関する知識がほとんどなく、韓国語の会話も未熟であったため、討論の時などには苦勞しました。レポートは1回、試験は中間テスト、期末テストの2回ありました。テストでは、教科書やプリントからほとんどが出題され、モデルをもとに事例に介入するという出題もあり、レポート作成や試験勉強にはかなりの苦勞と時間が必要でした。試験では外国人留学生であるということで専門用語などの翻訳のため、特別に電子辞書の持ち込みを許可していただきました。

「青少年福祉」では、毎週大学のホームページにのせられる次の授業で使用するパワーポイントの資料を各自プリントしていき、それに書き込みをしていく形で授業が行われました。専門的な単語が多く、先生の話す言葉も早く、プリントを書き写すのに必死でした。グループに分けられ、討論をする時間も多くありました。レポート、グループ発表、中間試験、期末試験があり、それぞれの準備が大変でした。グループ発表では、放課後に時間を合わせて、何度も打ち合わせや練習をし、自分たちで事例を設定し、それをもとに介入方法をレポート、パワーポイント、演劇による発表をしました。試験は毎回の授業で使用したパワーポイントの資料から出題されました。客観式・主観式の両方がありました。こちらの試験では、電子辞書の持ち込み、試験時間の延長を許可していただきました。

どちらの授業も週に3時間ずつあり、韓国人学生の中に外国人は自分1人という状況で、韓国語で行われる正規授業についていくのはとても大変でしたが、録音機を購入し、毎回の授業を録音したり、韓国人の友達が授業やレポート、発表の手助けを親切にしてくれたり、先生にも多くの配慮をしていただいてやりぬくことができました。

④クラブ、課外活動、ボランティア

クラブや課外活動は特にしていませんでした。ボランティア活動は、留学中に経験しようと思っていたので、韓国人のサポーターをしてくれた友達に相談して、ボランティアをできる場所を探し参加しました。私が春学期に参加したのは、小学生に日本語を教えるボランティアです。ソウル女子大学の日本語学科の友達がサービスランニングという大学の授業の一部として活動しているボランティアに私も一緒に参加させていただきました。週に一回、大学から少し離れた小学校に行き、放課後学級として実施している日本語の授業を担当させていただき、友達のサポートをする形で日本語を教えたり、日本語を使った

ゲームをしたりして 2 時間ほど授業を行いました。授業後には一緒に外で遊んだり、お菓子を食ったりととても楽しく、授業内容も友達と相談をして計画を立て準備をし、自分たちで授業を作っていくことができ、とてもいい経験となりました。

秋学期時には、他大学に通う韓国人の友達に紹介をしてもらい、NGOによるグローバル奉仕団に登録し、活動をすることにしました。私が参加したものは、土曜日に小学校に行き、2、3人で1クラスを担当し、2時間程度の授業を3回のプログラムで、経済や多文化の授業を行うものでした。紹介してくれた友達と一緒に3年生のクラスを担当することになり、私は授業をサポートする形で参加しました。子供たちは日本人である私にすごく興味を持ってくれて、休み時間も子供たちととても楽しく過ごしました。事情があり、私はそのうちの1回しか参加することはできませんでしたが、とてもいい経験、思い出となりました。

私はボランティアをすること自体、初めてだったので最初はすごく緊張して子供たちに受け入れてもらえるか等、不安も多かったですが、友達、担当の先生、子供たちの協力により楽しく充実したものとなりました。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

一年間、大学内にあるシャロムハウスという寄宿舎の4人部屋で生活していました。春学期、夏休み、秋学期、冬休みと学期ごとに部屋、ルームメイトが変わりました。ルームメイトは申請することもできますが、普通は韓国人2人と日本人2人の4人部屋でした。学期ごとに部屋の引っ越しがあり少し面倒ですが、いろいろな友達を作ることでもできたと思います。また、引っ越しの時に3、4日ほど部屋の消毒のため寄宿舎で生活することができない期間もありましたが、私たち留学生は行き先がないため、その期間中も寄宿舎で生活できるように部屋を用意していただき、不自由なく生活できました。

各部屋には、シャワー室、トイレ、洗面台、冷蔵庫があり、1つの部屋が三つに分かれています。ベッドルーム2つと、1人ひとりの机がある共同スペースがあります。1つの階にテレビ、ソファ、冷水機、休憩室（電子レンジあり）が共同で使えるようになっていました。

台所がなく料理をすることはできませんが、一階にコンビニと食堂がありました。食事は食券を学期初めに購入することが義務付けられていて、朝、昼、夕食を食べることができますが、春学期・秋学期は160枚、夏休み・冬休みは60枚ずつであるため、毎回食べると足りなくなってしまうです。門限は11時30分で、外泊は申請をすれば可能です。11時30分には点呼の係の方が各部屋まで来て行われました。遅刻や無断外泊などチェックが厳しく、それぞれに罰点があり、それが規定された点に達すると退舎となります。

各部屋にはオンドルという床暖房のようなものが設置されているので冬でも部屋の中は暖かいです。部屋でインターネットを利用することもできます。

2010年度からは外国人留学生はシャロムハウスの横にある寄宿舎で生活することになるそうです。私たちも帰国前の5日ほどはそちらの寄宿舎で過ごしました。部屋は2人

部屋で申請をすれば、韓国人とも一緒に生活できるそうです。各部屋には冷蔵庫はありますが、シャワー室やトイレ、洗面台はないので、階ごとにある共同のものを使います。

点呼などのシステムはシャロムハウスとほとんど同じですが、食堂がない代わりに共同の台所があるので、そこで作って食べることができます。(2010年度からの日本人留学生は食事がどのようになるのかはわかりません。) 寄宿舍での生活は韓国人の友達をたくさん作ることもでき、とても恵まれていました。

⑥長期休暇の過ごし方

私は、夏休みも冬休みも一度も日本に帰国せずに一年間ずっと韓国で過ごしました。最初の予定では、12月末には留学を終え、帰国するつもりでしたが、冬学期の韓国語の授業も無料で受講でき、寮も無料で生活できるということを知り、海外保険などの延長手続きをし、2月末まで留学を延長することに決めました。ソウル女子大学の夏休み・冬休みといっても、韓国語教育部での夏学期・冬学期の授業を受講したため、実際授業が何もない長期休暇はほとんどありませんでした。しかし、週末に友達と旅行に行ったりして楽しく過ごしました。

⑦留学期間中の就職活動の取り組み

留学期間中には、授業などで精一杯で就職活動といえることは、ほとんど何もできませんでした。2月末までの留学延長も就職活動のことがあり、かなり悩みましたが、キャリアサポートセンターの方と連絡を取り合ったり、アドバイスをいただいたりして、結果的に留学を延長することに決めました。3年次での留学であったため、就職に関するガイダンスや登録なども何もしないままでしたので、不安もありましたが、韓国で生活をしながら韓国語を学ぶことができる冬学期2ヶ月間のこのチャンスは今しかなく、貴重な経験をできる時間だと考え、留学延長を決めました。就職登録、リクナビの登録等も、帰国後に行いました。キャリアサポートセンターの方のアドバイスにより、自分の興味のある業種などについて考えてみたり、インターネットで調べてみたり、自分について少し深く考えるようにはしていました。

II. 留学の感想

①留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中、一番楽しかったことは、韓国語の授業で毎日一緒に授業を受けた中国人、日本人たちととても仲良くなり、毎日のように一緒に過ごしたことです。初めは中国人たちと仲良くなることは難しかったのですが、秋学期に入り、とてもすてきな仲間たちに出会うことができました。みんなで一緒に遊びに行ったり、外泊をしたりと絆を深め、多くの思い出を作ることができました。大好きな仲間たちと一緒に学び、過ごした時間は私にとって、とても大切な思い出となりました。とにかく毎日がとても楽しく大切な時間でした。

②留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

留学中、最も苦勞したことは、正規科目を履修することでした。韓国人の大学生と同じように全て韓国語で専門的な内容の授業を受けることは本当に大変でした。レポート作成

や試験勉強、発表には本当に多くの時間と体力と精神力が必要でした。しかし、一緒に試験勉強をしたり、レポートを手伝ってくれる親切な友達と出会うこともでき、本当に良い経験になったと思います。また、正規科目を履修したことにより、辛いことも多かったです。韓国語で本を読む力、聞く力、表現する力を成長させることができたと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

食べ物が辛いものばかりで、最初は食べられないものも多かったです。食べていくうちにだんだんと慣れていき、いつの間にか、すごく辛いものもおいしく食べられるようになっていました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

ソウル女子大学では、韓国語の授業が春、夏、秋、冬の2ヶ月ずつの学期に分かれていて、1日4時間ととても充実していたと思います。韓国語教育部の先生方はとても親切でいつも親身になっていろいろなことを教えてくださいました。また、発音、作文クリニックでは、韓国人の先生と一対一で発音を丁寧に教わりました。私はこの授業で韓国語の発音のコツを学べたと思います。その他にも、トウミ制度といって、留学生一人ひとりに韓国人学生をサポーターとして紹介してくれる制度もあり、ここでもとても良い関係を築くことができ、とても良かったと思います。

正規科目の授業では、全員が授業に積極的に参加するという形で、レポート、試験、発表など、内容は難しかったですが、いろいろなことに挑戦をし学ぶことができ、達成感のあるものでした。

悪かったところは、交通が不便だったことです。地下鉄の最寄り駅までは歩いて、20分ほどかかり、不便だったため、市内に出る時はたいてい南門の近くにあるバス停からバスに乗って地下鉄の駅まで行っていました。また、市内から、寄宿舎に門限までに帰るためには早めに出発しなければならず、少し不便でした。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

日本からノートパソコンを持って行きました。韓国語の授業、正規科目ともにインターネットによる検索、レポート作成やパワーポイントを使った発表などがあったため、自分のパソコンがあつて本当に役に立ちました。部屋でインターネットを使うこともできるので、絶対に持って行った方がいいと思います。電化製品は韓国に行って、すぐに使えるように、電気屋に行って確認をし、必要なコードやプラグなどを日本で買いそろえて行った方がいいと思います。ドライヤーも海外でも使えるものを持って行きました。

他には、最初のいろいろな登録の時に証明写真が何枚か必要だったのですが、私は日本で撮ったものを持って行っていたのでそれを使うことができ便利でした。もちろん、韓国で撮ることも可能です。

③ 学力の向上等、留学の成果

韓国語の授業では会話、聴解、作文、読解と全ての分野から自分のレベルに合わせて学

ぶことができ、寄宿舎では実際に韓国人の友達と会話をすることもでき、だんだんと韓国語で話すことに慣れ、成長していくことができたと思います。また、秋学期からの正規科目を履修することにより、さらに語学力を向上させることができたと思います。

私は韓国人や中国人の友達をたくさん作り、韓国語で話す機会をできるだけ多く持つように心がけていました。時間があれば、韓国ドラマを見たり、友達と映画を見に行ったりもして、韓国語に触れる時間をたくさん持ち、韓国語能力向上にもなったと思います。9月には韓国語能力試験（TOPIK）も受験しました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

ソウル女子大学は韓国語を学ぶのにも最適で、とてもすてきな大学だと思います。留学中には辛いこともたくさんあります。しかし、楽しいこと嬉しいこと、日本にいてはできないだろう多くの経験をする事ができます。自分が何もしなくても1年間はすぐに過ぎて行ってしまいます。留学生活は今しかない貴重な時間であるということを忘れずに一日一日を大切に過ごして悔いのない留学生活を送ってほしいです。今までしたことのなかった多くのことに挑戦をし、多くの経験をして多くの友達を作り、勉強も遊びも精一杯楽しんでほしいです。少しでも興味を持ったこと、やってみたいと思ったことには全て挑戦して下さい。頑張ってください。

IV. 写真



1月に大雪が降った時のソウル女子大学の写真です。20センチ以上積もっていたと思います。右側に見えるオレンジ色の建物が私たちの生活していた寄宿舎シャロムハウスです。

2010年度から日本人留学生在が生活することになる寄宿舎の共同台所です。ここには電子レンジもありますが、夜には鍵がかかるため、利用できないそうです。冷蔵庫は各部屋にあります。



S. K. 現代社会システム学科・4年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してからは、ビザの申請やパスポートの更新など少しずつ留学の準備をしました。私は、パスポートの期限が留学中に切れるのでビザを申請する前にパスポートの更新に行きました。大学の授業もあったので、テストが終わるまでは特に何も準備はしていません。とりあえずしなければならない手続きだけは早めに済ませました。

韓国語は特に勉強しませんでした。気が向いた時に単語集や本を見たりしていたぐらいです。映画やドラマを見て、韓国に行く前に韓国語に慣れておくのもいいかもしれません。

2月に入ってから、荷物の準備をしたり必要なものをそろえたりしました。服や靴などは、夏物と冬物と持っていかなければならないので、どちらも用意しました。すぐに必要なものはスーツケースに入れて、すぐに必要でないものは送りました。日本から荷物を送るのはとても高くつく(10kgで1万円かかります)ので、韓国で買えるものは韓国で買った方が無難かもしれません。ドライヤーなども私は日本から持って行きましたが、韓国でも安く売っています。

飛行機のチケットは留学ビザを提示して有効期間が一年間の往復チケットを購入しました。いつ頃購入したか覚えていませんが、予約が取れなくなると困るので、出来るだけ早めに予約した方がいいと思います。

銀行は日本の新生銀行を利用し、日本からお金を入金してもらって韓国でおろしました。日本から日本円で入金しておく、韓国ではウォンでおろすことが出来ます。

韓国に行ってからウリ銀行という銀行で口座を開きましたが、ほとんど使用しませんでした。新生銀行のカードは日本でも韓国でも使えますし、ネットバンキングの機能もあるので、とても便利です。お勧めです。

② 語学研修期間

3月1日に韓国に行って、次の日くらいにクラス分けのためのテストを受けました。筆記試験と面接試験です。

語学堂の授業は、1日に50分の授業が4コマあります。午前の班だと午前9時～午後1時、午後の班だと午後1時40分～午後5時30分までです。水、土、日曜日は休みです。また、春学期、夏学期、秋学期、冬学期の4学期に分かれています。1つの学期が約2ヶ月間です。その2ヶ月の間に中間テストと期末テストがあります。どちらも筆記試験(文法や作文中心)、面接試験(先生と1対1)、聞き取り問題、読解問題の4種類のテストがあります。合格点は3科目平均70点以上です。テストは授業の復習問題のようなものなので日頃から勉強しておけば難しくありません。私は日頃からあまり勉強をしていなかったため、テスト前夜に猛勉強することが多かったです。日頃から宿題はもちろん予習や復習をしておけば無理なく授業についていけますし、進級もできると思います。しかし、1学期で32時間(8日間)以上欠席するとテストをパスしても進級が出来なくなります。

語学堂の授業以外にも、週2回、前期は「韓国語会話」、後期は「中級韓国語」という授業を受けました。また、発音クリニックというプログラムもあり、週1回先生と1対1で発音の練習をする機会もありました。

学期毎に文化体験があります。参加は自由ですが、参加しないと欠席扱いになります。私はエバーランド(遊園地)や民俗村に行ったり、韓国料理体験(チャプチェやプルコギを作る)をしたり、Jump という公演を見に行きました。とても楽しいので、ぜひ参加してください。

高級になってくると、発表も増えてきます。アンケートやインタビューを行い、結果をまとめて、パワーポイントで発表します。私も様々な発表を行いました。その中でも「広告作り」という課題がとても心に残っています。これは、ある商品について、コマーシャルを作るという課題です。3人1組で中国人2人と同じグループでした。まず、シナリオを考えて、ビデオカメラやデジタルカメラで撮影をして、その映像を編集してコマーシャルを作ります。約7分の映像を作りましたが、想像以上に大変でした。自分たちも出演しなければならず、恥ずかしかったのですが、とても楽しく、いい思い出になりました。

語学堂で勉強している学生は、大半が中国人です。私のクラスは日本人4人、中国人7人のクラスでしたが、お互いとても仲良くなりました。授業の合間の休み時間には話をしたり、日本語や中国語を教え合ったりして遊びました。プライベートでも一緒に映画を見に行ったり、食事に行ったり、買い物に行ったりしました。中国人と同じクラスになり一緒に勉強をして、仲良くなれたことは留学生活の中でうれしかったことの一つです。

③ 正規科目履修期間

◆ 履修科目 (決定までのプロセス、具体的に履修した科目名とその内容)

前期は、「ヨガ」の授業と「中級日本語」の授業を取りましたが、韓国語の授業と両立させる自信がなかったので、受講するのをやめました。

後期は、心理学の授業を取りました。私は、4年次に留学したので4年間で卒業するためには、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」に代わる授業を受講し、単位を取らなければなりません。心理学系のゼミに所属していたので、心理系の授業を取りました。

授業名は「性格心理」(성격심리)です。授業はすべて韓国語で行われました。

授業内容、授業目標は以下の通りです。

学派の心理人間の性格構造に関連する多様な学的観点とこれを評価する方法について探究・考察し、それを人間または自分自身の理解の基礎にする。

1. 性格心理学の多様な観点について理解する。
2. 自身と他人の性格に対する理解を広げる。
3. 自身の性格特性について理解し、これが日常で経験する多様な問題とどのように関連しているのか理解する。自我がこれを解決する方法について考える。

授業や授業内容は、全体的に面白くありませんでした。一度に授業の内容全てを聞き取るのは難しかったので、ボイスレコーダーで講義を録音しました。先生はいい方でしたが、

講義形式で一方向的に永遠と話をされていたので、ただ聞いているだけの時が多く退屈でした。

◆ 授業、レポート、定期試験

評価方法は、出席 10%、中間テスト 35%、期末テスト 35%、レポート 2 回(各 5%)10%、発表 10%でした。韓国では、ほとんどの授業で出席点が入ります。出席することが一番重要です。中間テストも期末テストもほとんどの授業で実施されます。性格心理学の授業では、レポート提出も 2 回ありました。内容はそんなに難しいものではありませんでしたが、韓国語で書かなければならないので、友達に間違いをチェックしてもらったりしました。発表もありました。2 人 1 組でパワーポイントを作成し、発表を行いました。同じグループの友達が本当にたくさん助けてくれて、無事に発表を終えることができました。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブ活動、課外活動、ボランティア活動には参加しませんでした。このような活動に参加して、友達の輪を広げるのもいいかもしれません。

ソウル女子大学に留学中は、韓国語を教えてくれたり、一緒に遊びに連れて行ってくれたりする学生ボランティア(トウミ)を紹介してもらえます。ボランティアの学生は、日本語を話せない人、話せる人など様々です。前期は、外国人登録証の発行手続きや銀行口座を開く際の手続きを手伝ってくれたり、韓国語の宿題を手伝ってくれたりと慣れない韓国での生活を助けてくれました。

また、会話練習の学生ボランティアもいます。これは、週に 3 時間ずつぐらい、自分の空いた時間に韓国語の会話練習をすることが出来ます。ソウル女子大学の学生や中国人の学生と集まって、韓国語で話をします。話の内容は特に決まっておらず、好きな俳優の話、ドラマや映画の話、韓国や中国、日本の話などなんでも OK です。

⑤ 現地での住まい(語学研修期間、正規科目履修期間)について(寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など)

私は、1 年間シャロムハウスという寮で生活をしました。2008 年の夏に出来たばかりだったので、とてもきれいで過ごしやすかったです。部屋は 4 人部屋で韓国人 2 人、日本人 2 人の 4 人でした。各部屋毎に 4 つの机がある勉強部屋と、2 つのベッドとクローゼットがある寝室が 2 部屋ありました。エアコン、冷蔵庫、トイレ、シャワー室、洗面所が部屋についています。

夏休み、2 学期、冬休み、各期間ごとに部屋替えがあります。ルームメイトの申請もできるので、自分たちでルームメイトを決めることができます。私の部屋は 4 人ともお互いにとても仲良がよかったので、ずっと一緒に申請して同じ部屋を使いました。一緒に生活した韓国人や日本人の友達と家族のように仲良くなれて寮での生活は本当に楽しかったです。寝室も誰と使うか自由に決められるので、韓国人と使ったりしていました。

他にも寮にはコンビニと食堂、運動室、洗濯室(洗濯機、乾燥機 1 回各 500 ウォン(約 50 円))、コンピューター室、勉強部屋があります。各階毎に電子レンジとテレビ、浄水器(冷水も熱湯も出る)、トイレもあります。食堂では、毎日朝昼晩と 3 食食べることができます。

食事はおいしくありませんでしたが、来年度(2010 年度)よりおいしいと評判の食堂会社に変わるそうなので、期待できます。

毎日 11 時 30 分に点呼があります。点呼に遅れたり、無断外泊をすると罰点があり、罰点が 15 点以上になると強制退舎となります。気をつけなければならない点の一つです。外泊する時は、インターネットで申請しなければなりません。日曜日から土曜日までいつでも外泊可能です。しかし、平日の外泊は、月に 10 日までと外泊可能日数が決まっています。週末は、月に何日でも外泊可能です。

様々な規則がありますが、寄宿舎での生活はとても快適でした。

しかし、2010 年度の留学生から寮が「シャロムハウス」ではなく、すぐ横にある「第一寄宿舎」という寮に変わるそうです。

私は、第一寄宿舎でも 1 週間ほど生活しましたが、こちらの寮は部屋がすべて 2 人部屋です。こちらの寮も 2009 年 12 月に改築工事が完了したばかりなので、とてもきれいです。部屋には勉強机、ベッド、クローゼット、冷蔵庫完備です。こちらの寮にも洗濯室、運動室、コンピューター室、勉強部屋があります。階毎にトイレ、シャワー室、洗面室、浄水器、テレビがあります。コンビニと食堂がない代わりに、自動販売機と調理室があります。調理室に電子レンジもあります。調理室は 24 時間使用不可だそうです。

ですので、夜中に電子レンジを使用したり、調理したりということは出来ません。私は、第一寄宿舎では短い時間しか生活できませんでしたが、中国人の友達と一緒に調理室で料理をして食べたり、部屋で電気鍋を使って中国の激辛しゃぶしゃぶを作ってみんなで食べたりしました。

どちらの寮もインターネットはもちろん使用可能です。建物入り口と部屋の扉がオートロックです。全室オンドル(床暖房)なので、部屋の中では冬場でも半袖半ズボンで生活できます。

寮の各部屋には、シャンプーやリンス、掃除や食器を洗う洗剤、スポンジ、トイレトペーパーなど生活に必要なものは一切ついていません。唯一ついているのは、ほうきとゴミ箱ぐらいです。布団も付いていないので、韓国についてから買わなければなりません。洗剤やトイレトペーパーは、友達と一緒に買ったりにしていました。第一寄宿舎は、トイレトペーパーがついているので、買う必要はありません。

⑥ 長期休暇の過ごし方

長期休暇中も韓国語の授業を受けることができます。韓国語の授業を夏学期も受けた場合、学校の前期終了直後から韓国語の夏学期の授業が始まるので長期休暇はありません。せっかくの機会なので、特に用事がない場合は日本に帰らずに韓国で韓国語の授業を受けた方がいいと思います。

長期休暇がなくても、たくさん遊ぶことができます。私は、友達と韓国国内をたくさん旅行しました。ソウルはもちろん、プサン、チュンチョン、ヨス、カンウォンド、スウォン、チェジュドなどなどいろいろな所に出かけました。冬はとても寒いので、春から夏にかけてたくさん出かけた方がいいと思います。

私は、韓国にいる間に荷物がたくさん増えてしまったので、必要なくなった教科書やプリント、夏服などは一度日本に送りました。帰国 2 ヶ月前くらいにも必要ないものを日本に送り、荷物を徐々に減らしました。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

私は、留学期間中は就職活動をしていませんでした。会社情報や求人の情報は、少しでもチェックしておく和后々いいかもしれません。4 年次での留学は次年度の 4 月から働くのは厳しいと思います。就職が心配な方はよく考えて留学を決められた方がいいと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

私は、友達との生活が最も楽しく、最も思い出に残っています。一年間の留学を振り返ってみると、楽しかった記憶がほとんどです。一年間の留学で、たくさんの大切な友達が出来ました。

まず、寮で出会ったルームメイトは一生の友達です。私を本当にたくさん助けてくれました。また、私を慕ってくれました。一緒に旅行に行ったり、勉強をしたり、毎日夜中までいろいろな話をしました。韓国と日本の歴史のことや、文化のこと、日々の出来事、将来の夢、悩みなど、話は尽きることはありませんでした。

また、同志社女子大学から一緒に留学に行った友達も本当に大切な親友です。同じ目標を持って一緒に留学した 4 人は、韓国語のクラスもずっと同じだったので、時にはライバルとなり、時には助け合いながら 1 年間を過ごしました。この 4 人で留学できたことは、本当に最高でした。

授業で出会った中国人も本当に大切な友達です。私は、韓国に留学して中国人の友達が出来たなんて思っていませんでした。同じクラスになり、一緒に勉強をしたり、発表をしたり、話をしたり、遊んだりするうちに本当に仲良くなりました。中国人と仲良くなり、中国や中国語にも興味を持ちました。

人との出会いは本当に素晴らしいものだと思います。留学で一生の友達をたくさん作ることが出来たことが留学に行って一番うれしかったこと、心に残っていることです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

友達がルームメイトのことや部屋のことや悩んでいるときは、とても辛かったです。私の部屋は、問題なく過ごしていましたが、韓国人と合わなかったり、日本人と合わなかったりと悩んでいる人もいました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

韓国人の学生は、勉強熱心です。授業も、出席するのは当たり前で、その他にレポート、中間テスト、期末テスト、発表、討論など課題やテストも多く、授業参加度が特に重要視されるので、学生たちの勉強に対する思いが熱く感じました。授業での発表は、とても素晴らしかったです。内容も濃く、パワーポイントに分かりやすくまとめ、大学教授の講義のようでした。発表をする機会がほとんどない日本とは、レベルが違い少し驚きました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

寮がきれいなことは、とてもよかったです。学校の敷地内も自然が多くいいところです。リスも見られます。春には桜、秋には紅葉を楽しめます。近所にスーパーもコンビニもあり、そんなに不便のないところです。

しかし、最寄りの駅までは一足あります。歩いて 10～15 分くらいかかります。バス停の方が近いので、バスに乗って駅まで行くのも便利です。電車代やバス代も安いので気にせず利用できます。

明洞などの繁華街までは 1 時間～1 時間半ほどかかります。どこかに遊びに出た時には、点呼の時間を考えて早めに寮に向かったほうがいいです。

春は、黄砂の影響がすごいです。窓を開けていると砂が入ってきます。黄砂の時期は、机やいす、布団、パソコンなど気をつけて下さい。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは自分のものを必ず持って行った方がいいと思います。寮にもありますが、テスト期間になるととても込みますし、韓国仕様なので不便です。パソコンを持っていく場合、海外で使えるパソコンのコードと変換プラグが必要です。

パワーポイントのソフトは、あると便利だと思います。寮のパソコンにも入っていますが、自分のパソコンに入っているとみんなで集まって作成する場合や発表の際に便利です。

ボイスレコーダーもあると便利かもしれません。講義の録音をしたり、発音の練習をしたりする際に使えます。

③ 語学力の向上等、留学の成果

語学力は、確実に伸びたと思います。ルームメイトが韓国人だったため、韓国語で話をしていましたし、毎日夜中まで一緒に勉強をしたり、話をしたり、遊んだりしていました。韓国人の学生と生活できたことは、韓国語を学ぶ上で本当に大きな助けとなりました。留学したばかりの頃は、辞書を使って会話をしていましたが、そのうち辞書も使わずに会話ができるようになりました。

映画もよく見に行きました。韓国映画はもちろん洋画も見ました。洋画の場合は、韓国語字幕についていくのが難しかったですが、大体の内容は理解できるようになりました。

また、発音クリニックというプログラムを通して、韓国語で発音がどれほど重要なのか知りました。韓国語は母音や子音が多く、ちょっとした発音の違いで単語の意味が大きく変わります。日本人には聞き分けられない(日本人には同じ音に聞こえるが、韓国人は聞き分けられる)発音がたくさんあります。1 年間勉強しましたが、その発音を聞き分けることは難しいです。日本の大学でも韓国語の授業を取っていましたが、発音は詳しく習ったことがなく、意識したことがありませんでした。この発音クリニックを通して、韓国語の音の違いを理解し、発音も意識するようになりました。

また、旅行に行くとなるとホテルやツアーの予約も必要になるので、日本人の友達とインターネットで情報を調べたり、電話で予約を取ったりしました。このような経験も語学力アップ、自信につながったかも知れません。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学、最高です！！大学で更に、いい経験といい思い出をたくさん作ってください。留学は社会人になってからは、なかなか難しいことだと思います。「今しか出来ないこと」だと思います。不安はたくさんあると思いますが、日本にも韓国にも留学生生活をサポートしてくださる職員の方や友達がいるので、心配することはないです。

留学をしてからは、写真をいっぱい撮ってください。記憶は薄れてしまいますが、写真は残ります！写真を見れば、楽しかった思い出が蘇ります。少なくとも1日1枚写真を撮っておくといいかもしれません。私は、写真を取らなかったのが、後悔しています。

まず、友達をたくさん作るのは、重要だと思います。友達がいるということは、留学生活を送る上で本当に大きな助けになります。

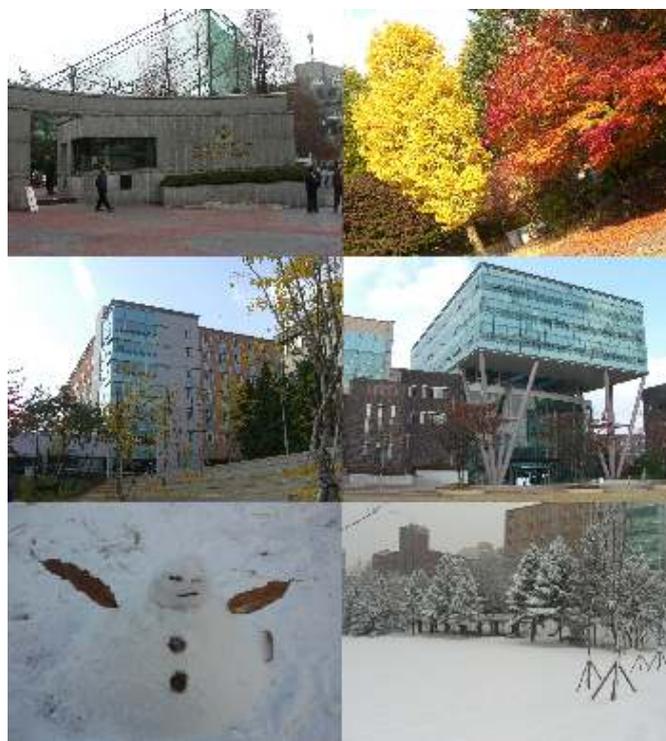
勉強も重要ですが、たくさん遊んでください。「今しかない」ということを忘れず…、面倒くさがらずにいろいろなことに参加し、挑戦して、たくさん遊んで、たくさん勉強して、いい思い出を作ってほしいなと思います。

IV. 写真



寮の調理室で料理をしている風景です。第一寄宿舍には、調理室があるので、自分で作って部屋で食べることが出来ます。中国人の友達と一緒に中国の激辛しゃぶしゃぶを食べました。友達と部屋で電気鍋を使って作りました。フライパンやお鍋、お皿、お箸なども個人で準備しなければならないと思います。

構内の紅葉、寄宿舍と校舎外観、冬の構内の写真です。秋は、とてもきれいな紅葉が見られます。校舎は最近改築したばかりの校舎で、きれいで変わったデザインをしています。冬は大雪が降りました。雪がサラサラしていて雪が固まらず雪だるまが作れませんでした。室内はあったかいですが、外はとても寒いです。



Y. T. 英語英文学科・4年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後は航空券の予約やビザの申請、パスポートの更新等、準備をしなければいけません。私の場合は一人暮らしのため、住民票、戸籍謄本など必要なものを実家から郵送してもらいました。パスポートは5年のものを持っていたのですが、留学中に期限が切れてしまうため、10年のものを書き換えました。スムーズにいくと思ったのですが、静岡県出身なので京都で更新するのに少し時間がかかってしまい、とても焦った覚えがあります。準備は念入りに、余裕を持って行うのが良いと思います。航空券は一緒に留学する友人と日程を合わせて購入しました。学生ビザや長期留學生用に安く販売している所もあると思うので早めに検索して安くGETするのが良いです。

韓国は3月から学期が始まり、気候は日本よりも寒いのでコートや冬服を持って行き、後の荷物(残りの服や夏服)は親にEMSで輸送してもらいました。洋服は現地でも購入できると思い少なめにしました。プラグは日本とは形が異なるのでアダプターを準備しなければなりません。変圧器は必要なかったです。パソコンのケーブルは各デスクに繋がります。日本から持っていかなくても電気屋で安く手に入ります。

② 語学研修期間

語学研修は大学の正規科目と並行して行われました。語学の授業では級ごとに全て韓国語で行われます。私は2級からのスタートでした。1学期は約3カ月で行われ、中間試験と期末試験があります。2級の時は午後の授業だったので正規科目は午前中で予定の合う科目をとりました。語学堂では語彙、文法、会話、作文などバランス良く勉強ができ、先生方もその級に合った韓国語で丁寧に教えて下さいました。毎日の課題やクラスメイトとの共同作業も多いのでやりがいがあります。クラスメイトの半数以上は中国からの留學生なので、休み時間にも韓国語で話したり、中国人の友人もたくさんできたので一緒に勉強をがんばることができました。3級は夏学期だったので、夏休みの午前中に行われました。他の学生達は夏休みなのでがらんとした学校で授業をしました。長期休みも有効に活用できて良いと思いました。進級するとクラスメイトも担任の先生も変わるので心機一転という感じで緊張感も常にありました。4級の授業では高級の授業に対応できるように、パワーポイントを使った発表や、ドラマのセリフを利用したリスニングなど、ハイレベルでした。本文の内容も初級では文化や生活習慣など身近なテーマが多かったのに比べて4級にもなると歴史や物語、ニュース等、難しいテーマも多かったのですが、韓国で生活する上で実際に役に立つものばかりでした。

③ 正規科目履修期間

私の専攻は英語英文なので、正規科目では英語の授業を登録しました。前期には韓国語の学習に力を入れたかったし、TOEICの授業を登録しました。

◆ 初級韓国語会話

正規科目の韓国語の授業で、留学生が主に履修する科目です。この授業では語学堂で学習した文法の復習、活用の復習など基礎を固めてさらに会話形式で身につけようという授業でした。初級なので文法を使った言い回しを練習することが多かったです。もちろん韓国語で行われます。

◆ TOEIC700

この授業では TOEIC550 点以上のスコア保持者が履修でき、700 点を目指します。TOEIC Speaking にも対応できるように Speaking も行われます。授業内では全て英語で英文法などを学びました。実際の TOEIC 試験も成績に入るのでとても実用的でした。

◆ ヨガ

体育の授業でヨガを選択しました。韓国に来て間もなかったのに韓国語での体育の授業は少し心配だったのですが、日本語学科の友人に協力してもらい、ヨガを楽しみました。中間試験では習ったヨガの姿勢を写真に撮り、姿勢の名前、説明等を付けたレポートを提出し、期末試験では一連のヨガ動作や姿勢の実技試験でした。ちなみにこの時期、私はレポートを韓国語で書けるほどではなかったのに英語で書いて提出しました。

◆ 韓日翻通訳法Ⅱ

後期には韓国語を日本語に翻訳、通訳する授業をとりました。この授業では、韓国語での演説、ニュースなどを日本語で翻訳したり、通訳するうえで必要な基礎的なことを学びます。韓国語の上達にも繋がったような気がします。

◆ Understanding Contemporary Korean Society

この授業も全て英語で行われますが、韓国の歴史、文化、時事、教育など現代の問題も幅広く学習します。毎週 2～3 人でパワーポイントを利用した発表をし、そのテーマについてディスカッションを行いました。韓国人の学生もアメリカからの留学生も履修していて良い雰囲気でした。発表の技術も身に付きます。

◆ 中級韓国語

この授業ではグループ(3人程度)でインタビュー、広告作成、調査など、選ばれたテーマでグループワークをします。私の場合はインタビューだったので、中国人のパートナー 2 人と韓国語教育部のイム先生にお願いしてインタビューを行いました。韓国語での発表なので事前の準備や打ち合わせが大変でしたが、その分やりがいもあります。その他にも説明文を書きました。テーマは自分で選べたので大好きなコーヒーについて調べて A4 で 5～8 枚ほど書いたと思います。課題が多く大変ですが韓国語への自信がつくと思います。ただし授業の内容は学期や先生ごとに変わると思います。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

大学 1 年の時から所属している国際交流クラブの韓国支部がソウル、テグ、カンジュにあるので、その活動に参加しました。クラブがきっかけで知り合った友人が多かったので再会の機会も多くとても嬉しかったです。夏休みにはナジュというところで一週間ほどの韓日学生交流に参加しました。私の新しい出会いもあって素敵な思い出になりました。ソウル女子大にあるクラブではないので他大学の友人もできて人脈も広がりました。ソウル

支部はソウル大学なので広いキャンパスに驚きました。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

寮は4人部屋で韓国人学生が2人、日本人が2人でした。シャロムハウスは新しかったです。各部屋にシャワーとトイレ、洗面台が付いているので快適です。4人部屋で狭苦しいというイメージがあるかもしれませんが、デスク、ベッド、クローゼットは一人ずつあるので個人のスペースは十分です。冷蔵庫も各部屋の一つずつ完備されています。デスクにはインターネットの使用も可能ですが、部屋では無線は使えませんでした。ケーブルがあると便利だと思います。洗濯は地下にあり、洗濯機と乾燥機は各500ウォンです。洗濯室の隣には運動室があり、とても快適です。予約制の視聴覚室では大画面でテレビやDVDが見られるのでルームメイトとよく映画鑑賞をしていました。視聴覚室も運動室も無料なので是非利用してみてください。1階に共同のコンピューター室もあるので印刷も可能です。床暖房も付いていていつも温かく、夏は涼しくて快適でした。事務室の先生も私たちに良くしてくれてとても感謝しています。

⑥ 長期休暇の過ごし方

長期休みにはドラマを見ていました。あと先ほども述べた国際交流のプログラムに参加しました。特に楽しかったのは日本から姉と母が韓国に遊びに来てくれたことです。母は韓国ドラマが好きなのでドラマの撮影地巡りやインサドン、トクスグンなどを回って、NANTAというショウも鑑賞し本当に韓国を味わった4日間でした。寮の友人に家族を紹介できたのも嬉しかたし、母と姉に喜んでもらったので私も嬉しかったです。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

4回生という時期に留学したために就職活動は常に気になっていました。最初は留学しながらでも就職活動をしようと思っていたのですが、やはりほぼ毎日ある授業を抜けることができないので、就職活動は留学が終わってからにしよう、と割り切るようにしました。就きたい職業や自己分析などはある程度考えてはいましたが、本格的には帰国後に開始しました。私としては就職の前に韓国語を習得するのが先だとおもっていたので、韓国での勉学に専念しました。そのおかげで自信を持って就職活動も進められると思ったからです。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中で最も思い出に残っていることは寮の友人が誕生日パーティーを開いてくれたことです。韓国で過ごす初めての誕生日に最高の仲間と最高の思い出が出来ました。日にちが変わった夜中の12時に開いてくれたのですが、大好きな友達に祝ってもらえてとても幸せでした。楽しかったことと言えば、語学堂の秋学期に開かれたイベントです。いつもは別々に授業を行うのですが、その日は4級の1組から3組が集まって4級で習った単語や諺などをクイズやゲームで勝負する大会がありました。最後にクラスの自慢大会のようなコーナーがあって、他のクラスは歌が多かったのですが、私たちは張り切ってはやりの韓

国歌の歌に日本と中国の踊りを組み合わせてダンスをしました。積極的で個性的な仲間が多かったので準備の時から笑いが絶えませんでした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

韓国へ行って3カ月はなかなか韓国語での会話が出来なくて苦勞しました。勉強しながら自分の語学に上達を感じないと本当に辛かったです。しかし積極的に話したり、文を書いたりすることで間違いに気づいたり、新しい発見があったりして前向きに考えられるようになって行きました。それには周りの韓国人、中国人の友人との良好な関係にあったからだと思います。友人と一緒に時間を過ごしていたので孤独だと感じたことも無いし、学校での授業以外のサポート（発音トレーニングや文化体験など）も充実していて自信に繋がりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

韓国は奢る文化だなと思いました。男性が女性に奢るのはもちろん、女性同士でご飯やカフェなどに行く時はどちらかが払って、「次は私が払うね」という感じでまた一緒に出かけるきっかけにもなるわけです。特に先輩が後輩に奢ることも多いと思いました。日本では「割り勘文化」なのでそこが違うなあと思いました。韓国の方はせっかちだとよく言われますが、確かに1人が払ったほうが会計もスムーズなのかもしれません。もちろん毎回というわけではないし、割り勘する方もいます。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

留学生のために一人に一人ずつソウル女子大学の学生がサポーターとして付いてくれたのが良かったです。右も左もわからないので、外国人登録や観光、履修のことなど分からないことは教えてもらいました。私のサポーターは日本語学科の学生でしたので日本語と韓国語を混ぜて会話をしたり、お互いに言語を教えあって勉強したりもしました。分からないことはなんでも聞けたので安心して生活できました。サポートしてくれた先輩には感謝しきれないです。この先も良い関係で居たいと思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

日本からはパソコンやケーブル、プラグのアダプターなどがあると便利だと思います。パソコンは寮内のパソコン室にもありますがテスト期間が近付くとなかなか思うように使えないので自分のものがあつたほうが便利です。

ベッドはありますが、布団は各自用意しなければならなかったのが初日に国際協力部の先生とタクシーで買いに行きました。日本から布団を持って行くのは不可能だと思うので現地で買うか、あらかじめ郵送するのが良いと思います。その他の日用品はスーパーに売っているので買いそろえることができました。

③ 語学力の向上等、留学の成果

9月に韓国語能力試験（TOPIK）を受験し、中級の4級に合格することができました。留学前に日本で受験したときは初級の1級の実力しかなかったのに、半年で上級の一

歩手前まで実力が伸びたのでとても自信になりました。現地で受けるという良い経験にもなりなりました。その他に語学力が向上したと実感したのは、テレビドラマや映画を字幕無しで見られるようになったことです。それまでは一部分しか聞き取れなくて内容までは理解できなかったのに、新しく習った表現や知っている単語が聞き取れるようになったので更に韓国での生活が楽しくなりました。久しぶりにあった韓国人の友人には「もうすっかり韓国人だね」と言ってもらえたのがお世辞でも嬉しかったのを覚えています。軍隊の友人やクラブの友人とも韓国語で手紙やメールをやりとりできるようになったのも大きな成果だと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

ソウル女子大学の語学プログラムはとても充実していて、先生と生徒との信頼関係、生徒同士が交流する機会も多く、とても素晴らしいと思います。語学堂には中国やモンゴルなどアジアを中心にその他多くの留学生在るので、積極的に交流することで留學生活がもっと楽しく充実すると思います。4級の時のクラスは本当に最高で、笑顔が絶えないクラスでした。年齢も国籍も違うのに、ここまで仲良くなれたのは同じ目標に向かって頑張っているからだだと思います。なので、出会いを大切に、仲間と一緒に頑張りたいと思います。

IV. 写真



この写真は夏に行われた日韓交流クラブで開かれたプログラムで海に行った時のものです。参加者は日本と韓国の学生総勢50名ほど集まって5日間の合宿をしました。韓国の文化体験や日本の文化紹介も行われて、お互いに影響を受けたと思います。

この写真は担任の先生とクラスメイトと一緒にサムギョプサルを食べに行った時の写真です。学校からバスで15分くらいのノウオンという所でご飯を食べました。食べ放題だったのでとても幸せでした！是非行ってみてください。



Y. M. 英語英文学科・4年次

I. 留学レポート

①留学決定から出発までの準備期間

留学が決まってからは、勉強に関しては、会話表現などを中心に勉強に力を入れていきました。留学の1ヶ月前から円をウォンに換えたり、ビザ取得しました。寄宿舎の状況をソウル女子大学の職員方に聞いたり何が必要なかの確認をやりとりしていました。

②語学研修期間

韓国語集中期間に関しては、現在7級までレベルがあるのですが、級によって時間帯が違います。私は2級から始めました。級ごとの授業スパンが2ヶ月程度で、その間に休みが1ヶ月入るので、一年間みっちり滞在して、確実に試験をパスしたとしても、5級までしか受講できませんでした。出席に関しては一日4時間×8日以上を欠席すると、Fallします。試験に落ちて進級できないだけならまだしも、留学の目的は語学堂で一生懸命勉強するためにビザを取得しているのであって、4時間×8日以上を欠席してしまうと、留学ビザが取り消しになる可能性もありますので、なるべく欠席は控えて、できるだけ遅刻でも行くようにすると、まだ救いの余地があると思います。

③正規科目履修期間

正規科目履修期間については、韓国語集中期間と授業時間帯がかぶったりする期間があるかと思いますが、そういう時間を考えてかぶらないように履修します。春学期と秋学期の2回の履修登録があります。2009年度の留学生は春学期は、日本留学生担当の先生がやってくれましたが、秋からは担当の先生が変わり個人でやるようにと言われ、コンピューターでの履修のやりかたを教えてもらい自分たちでやりました。インターネットで履修登録をするのですが、科目により20人、30人などの人気の授業などは早いものがちという感じで、ほんとに1分1秒が命取りになるほど、履修登録の期間は皆さんコンピューターにかじりついていました。特に英文科は科目ごとに人数が少ないので英文学科の方はがんばってほしいです。

履修科目：春 **TOEIC700**：トイック 700 点を目指し教材を使いながらの授業
健康ヨガ：ヨガの形の名前を覚えながら護身運動していく。

秋 **Understanding Contemporary Korean society**：授業はすべて英語で韓国の社会を考えプレゼンテーションをし、学生同士でディスカッションをしてこれからの社会をもっといい形でできるように考えていく。
課外活動：福祉施設で混血の子供たちに英語を教えながら、現在の韓国での混血の子供の立場を考える。

④クラブ、課外活動、ボランティア

クラブ活動に関しては韓国伝統楽器クラブに少しの期間だけ入ったのですが、勉強がものすごく忙しいので、途中でやめました。しかし、クラブ活動などに積極的に参加することによって、友達の輪が広がるので余裕があればしてほしいと思います

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

寮に関しては、2010 年度以降から、日本から留学生に来る方は、中国学生、韓国学生が住む寮になります。ルームメイトの組み合わせは、おそらく寮に入る前に韓国の方と一緒にシェアしたいのであれば事前に連絡しておけばしてくれると思います。シャワーとトイレは部屋の外（廊下）にあり自炊ができます。門限は 11 : 30 です。この時間を過ぎると罰があり、ある程度の回数を超えるとトイレ掃除やシャワー掃除などをさせられます。気をつけて遅れないように。結構思っていたよりも部屋の壁が薄いので、友達と大きな声で話すと寮の先生からお叱りの言葉を受けるので、共同生活しているということを念頭に生活をしてください。

⑥ 長期休暇の過ごし方

長期休暇といっても韓国語集中講座と正規科目履修がかぶってしまうので、実質 3 週間くらいしかありませんが、この期間はチンチルバンというサウナ風呂屋に行って体をやすめたり、チェジュ島などソウルから離れた場所に旅行したりと、長期期間だからできることをしました。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

留学期間中は一切、就職活動はしていません。私は教職の方の仕事に就きたいので特別就職活動に関しては触れていません。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中で楽しかったことは、語学堂での他国の友達（中国、パキスタン、アメリカ）、韓国語を学ぶという同じ目的を持ち、いろいろな意見を持っている自分とは違う国の方々と仲良くなれたことです。一番思い出に残っていることは、とても仲良くなった同じクラスの中国の友達と日本の友達とで、思い出の DVD を作り皆で観賞したことです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

つらかったことは、留学最初の 3 ヶ月間は全く韓国語も聞き取れず、言いたいことも伝わらず自分自身にとってもいらいらしていました。勉強机にも単語をペタペタ貼り、できるだけ韓国の友達と一緒にいるようにして勉強していました。そして私は英文学科なので英語科の授業もとったりと、英語と韓国語の二つの言語を両方を勉強していたので、勉強の面でとてもつらかったです。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

留学先大学では、位置がソウル中心部から少し離れており、空気がまだきれいです。悪い点はソウル中心部から離れているということです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

日本から持って行って役に立つものは、パソコンは必須です。そして日本で購入した機械（パソコン、携帯、カメラなど）をつなぐプラグ（韓国対応するコネクトコンセント）をもっていくと役に立ちます。それ以外は韓国で購入すればいいと思います。

③ 学力の向上等、留学の成果

語学力の向上に関しては、確実に成果はありました。しかし、やはり人によって差はあります。性格にもよると思うのですが、向上心やポジティブ精神、外交的、社交的な学生はやはり伸び率は高いと思います。その精神を忘れずに留学後の自分の姿を描きながら勉強すると誰でも語学力は向上すると思います。あきらめないでください。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学しようと思う学生であるから、向上心やポジティブ心があるのは、あたりまえのことかもしれませんが、自分の力を過信しすぎず、他人に対しての配慮と感謝を決して忘れずに、自分に関わった全ての方々にいつもお礼の精神で向かってください。そして韓国の方に対しては細かい配慮を忘れずに。その細かい配慮は全て自分に帰ってきます。

IV. 写真



この写真は、안국（アング）駅を降りて10分くらいあるくと手作りの 갈국수（カルグクス）の美味しい店に行ったときの写真です。ここは土日の昼タイムは1時間待ちです。

ぜひ行ってみてください。韓国人の方なら知っていると思います。

友達に聞いて行って見てね。

この写真はミョンドンの民族村というところでとりました。民族衣装での写真も留学の思い出に入れてみてはどうでしょう。

